

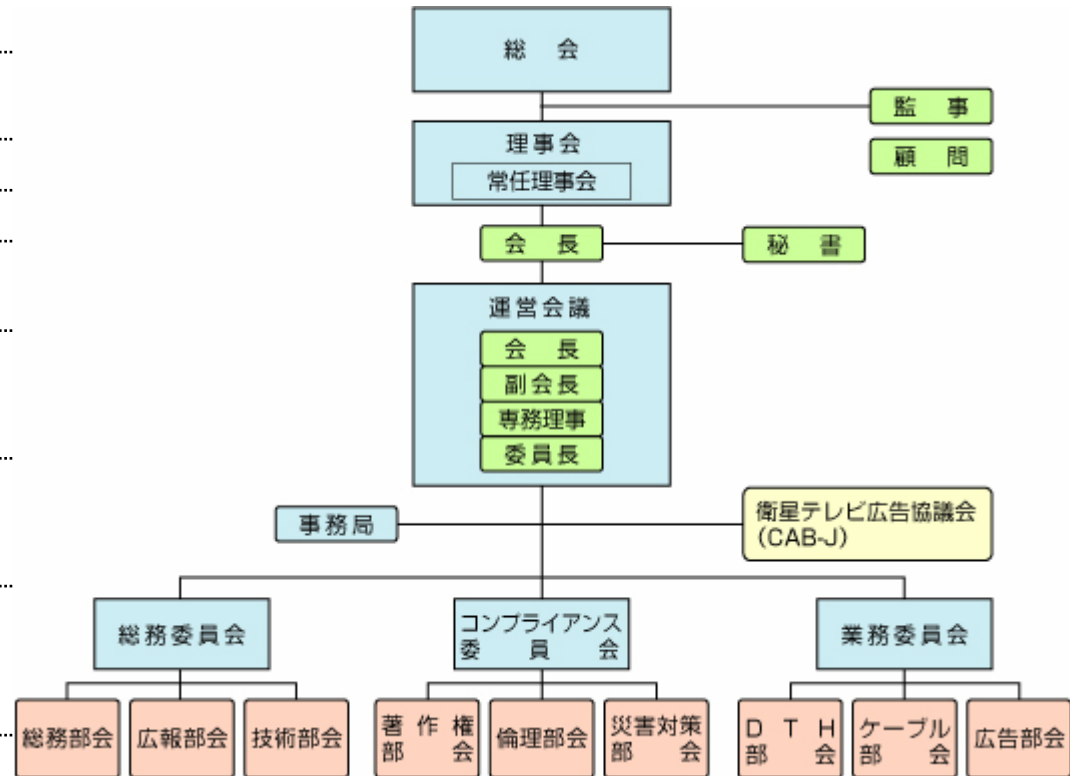
公平負担のための受信料体系の現状と課題に関する研究会 御中

「CSデジタル放送の変遷とNHKの衛星受信料の在り方」について

平成20年2月8日
社団法人衛星放送協会

1. 社団法人衛星放送協会について

| | |
|-------|---|
| ■名称 | 社団法人衛星放送協会 |
| ■所在地 | 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-8 あまかすビル4F 03-3597-3211 |
| ■設立 | 1998年6月 |
| ■会員 | 正会員 108 賛助会員 37 |
| ■会長 | 植村 伴次郎 (株)東北新社 代表取締役会長 |
| ■副会長 | 竹岡 哲朗 ジュピターサテライト放送(株) 代表取締役社長 |
| ■副会長 | 河西 明 (株)日本ケーブルテレビジョン 代表取締役社長 |
| ■副会長 | 岡本 光正 (株)ハリウッドムービーズ 代表取締役社長 |
| ■専務理事 | 林 尚樹 |



●本協会は、衛星放送事業が社会の期待に応えることができるよう、その放送水準の向上と普及発展をめざし、衛星放送事業に関する諸問題の解決を図るとともに、衛星放送が、高度情報通信社会における多様な放送メディアとして、公共の福祉を向上させ、社会的使命を達成することを目的とする。

2. CSデジタル放送の現状

(1) サービスの数(平成19年12月)

| | | |
|----------------|----------------------------|----------------|
| ■サービスの総称 | 124/128スカパー！ | E2byスカパー！ |
| ■チャンネル(サービス)の数 | TV 189 音声 102 データ 36 | TV 69 データ 2 |
| ■放送事業者数 | 100 (うち役務利用放送事業者 50) | 11 |
| ■加入者数(個人契約者数) | 309万件 | 49万件 |
| ■使用する通信衛星 | JCSAT3、JCSAT4 | NSTAR |

(2) 加入者数(平成19年12月)

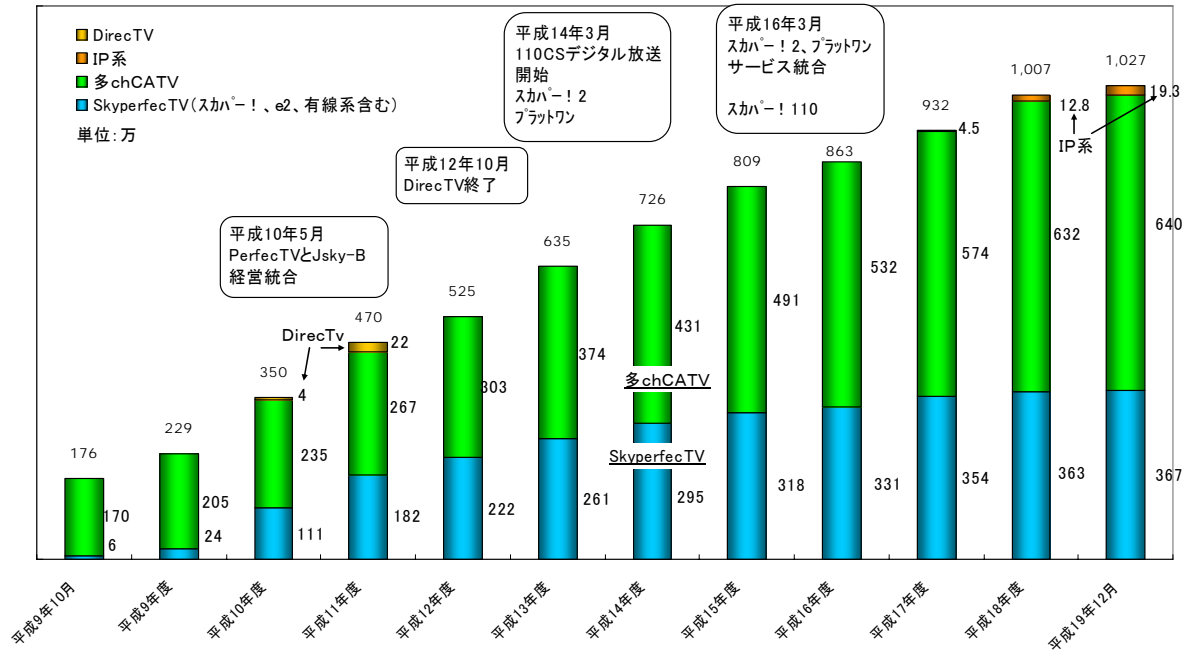
| | |
|-----------------|---------|
| | 加入件数 |
| ■DTH(直接受信) | 358万件 |
| ■CATVその他(IP等含む) | 672万件 |
| ■合計 | 1,030万件 |

(3) CSデジタル放送

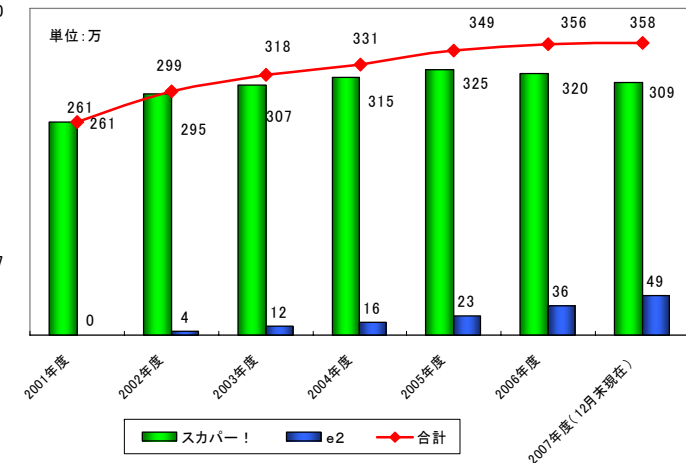
- 1986年7月1日、本業界の先駆けとして、スターチャンネルが上田ケーブルテレビジョンに番組をテープ配信を開始した事により、CS放送・番組供給事業がスタート。
- 当初は、CSを利用した多チャンネル有料放送サービスを行うCATVへの番組供給事業としてスタートした。その後、集合住宅への配信を経て直接受信(DTH)へも進出し、デジタル伝送方式を取り入れることによって番組(チャンネル)数の大幅な拡大を可能とした。わが国でデジタル放送の先駆的役割を果たしてきたものである。
- CS放送の特徴は有料専門チャンネルの集まりであることにある。国民の多種多様な嗜好にあわせ映画、スポーツ、音楽、アニメ、ニュースなど様々なジャンルの専門放送を国民に提供し、NHKや地上波民間放送ではなしえないサービスの提供に努め、放送サービスの隙間を埋める補完的な役割を担っている。
- スタートより20年が経過。この間「受託・委託放送制度」(ハード、ソフト分離)により参入が容易になったこと、プラットフォーム事業者が出現したこともあり市場規模は1千万件に到達し総世帯数に占める割合は、ほぼ20%に達している。

3. CSデジタル放送 有料多チャンネル加入者の変遷

(1) 加入件数全体（多chCATVは一部推定を含む）



(2) Skyperfect TV (スカパー！+e2) 加入の変遷



- 当初、有料多チャンネルをサービスする多チャンネル型CATVへの番組(チャンネル)供給が中心。その後、CSによるデジタル多チャンネル放送が出現し多種多様な専門チャンネルが展開されている。
- 124/128CSデジタル放送は1996年(平成8年)10月PerfecTV!のサービス開始に始まり20年が経過。この期間にPerfecTV!を中心としてJSKY-Bとの統合(1998年(平成10年)5月)、ディレクTVの終了(2000年(平成12年)10月)を経て現在の124/128CSデジタル放送であるスカパー！となっている。サービス開始当初より順調に視聴者数を伸ばしてきたが個人契約者数が300万をこえたあたりから踊り場に差し掛かり、ここ数年停滞傾向
- 110CSデジタル放送はサービスの高機能化(HD化、データ放送、音声放送)を目指し2002年(平成14年)3月「プラットワン」「スカパー！2」のサービスが開始された。
- 2004年(平成16年)3月に2社のサービスが統合され「スカパー！110」となり2007年(平成19年)2月に「e2byスカパー！」と名称が変更され現在に至っている。
- サービス開始当初、加入件数が伸びず苦戦していたが、2003年(平成15年)12月の地上デジタル放送開始を契機に、3波(地上・BS・CS)共用受信機の普及が飛躍的に伸びたことを背景に普及のスピードが増している。
- CATV経由の加入者は順調に伸張している。
- 今後は放送サービスのHD化と番組内容の充実をはかることで加入を伸長させるものである。平成23年度(2011年)までに1,500~2,000万を目指している

1. CSデジタル放送の放送技術の進展と番組(チャンネル)数の増加

CSデジタル放送のテレビ受信

| 区分 | サービス初期 | 現 行 | | | | 2008年秋以降 |
|-------------------|------------------|-----------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------|--------------------|
| | 通信衛星 (CS) | 通信衛星 (CS) | 通信衛星 (CS) | 通信衛星 (CS) | 通信衛星 (CS) | 通信衛星 (CS) |
| アナログ・デジタル | アナログ | デジタル | デジタル | デジタル | デジタル | デジタル |
| 衛星名 | JCSAT-2A | SUPERBIRD-C | JCSAT-3A | JCSAT-4A | N-SAT-110 | JCSAT-4A |
| 静止軌道位置 | 東経154度 | 東経144度 | 東経128度 | 東経124度 | 東経110度 | 東経124度 |
| 中継器出力 (TV免許値) | 120W | 90W | 127W | 72.4W | 104.7W | 72.4W |
| 放送に使用している 中継器数 | | 2 | 20 | 16 | 12 | |
| 受信アンテナ径 | 約38cm~60cm | 約45cm | 約50cm~ 60cm | 約50cm~ 60cm | 約45cm | 約50cm~ 60cm |
| アンテナ方向 | 南東向 仰角約42度 | 南南東向 仰角約48度 | 南西向 仰角約47度 | 南西向 仰角約45度 | 南西向 仰角約38度 | 南西向 仰角約45度 |
| 放送方式 | CSアナログ方式 | CSデジタル(狭帯域伝送)方式 | CSデジタル(狭帯域伝送)方式 | CSデジタル(狭帯域伝送)方式 | CSデジタル(広帯域伝送)方式 | CSデジタル(高度狭帯域伝送)方式 |
| 映像 音声 | アナログ映像 アナログ音声 | | MPEG-2Video MPEG-2Audio | MPEG-2Video MPEG-2Audio | MPEG-2Video MPEG-2AAC | H.264 MPEG-2AAC |
| 伝送方式 | | | DVB-S | DVB-S | ISDB-S | DVB-S.2 |
| 限定受信方式 | コアテック方式 | パインス限定受信方式 | Perfec CARD方式 | Perfec CARD方式 | ARIB限定受信方式 | Perfec CARD方式 |
| DTHサービスの総称 | | | スカパー! | スカパー! | e2byスカパー! | |

- CSデジタル放送開始初期においてはアナログ伝送が主流であったため「1中継器あたり1番組(1チャンネル)のTV(標準テレビ)伝送」と非効率であったが、デジタル伝送方式の採用(PerfecTV! 平成8年)により1中継器あたりのTV(標準テレビ)伝送が6~8可能となった。
- 国内の放送サービスが順次HD化していく中、CSデジタル放送において広帯域伝送方式ではMPEG方式、狭帯域伝送方式ではh.264方式でHDTVまたは高画質放送を実現している

5. CSデジタル放送における番組(チャンネル)の数

■視聴者の嗜好に合わせ多種多様な専門チャンネル放送を実現

| | スカパー！(12/128CS) 専営 | スカパー！(124/128CS)、 e2(110CS) サイマル放送 | e2(110CS)専営 |
|------------------------|-----------------------|--|-------------|
| | 139※ | 50 | 19 |
| スカパー！(124/128CS)チャンネル数 | 189※ | | |
| e2(110CS)チャンネル数 | | 69 | |

※ペイパービュー 31含む

| | | | |
|---------------|----|----|---|
| 映画系 | 6 | 8 | 2 |
| スポーツ系 | 2 | 10 | 4 |
| 音楽系 | 6 | 6 | |
| アニメ系 | 1 | 5 | |
| 総合エンターテイメント系 | 3 | 5 | 1 |
| 海外 ドラマ・バラエティ系 | 4 | 4 | |
| 国内 ドラマ・バラエティ系 | 7 | 2 | 3 |
| ドキュメンタリー | | 4 | |
| ニュース・ビジネス | 7 | 5 | |
| 趣味・娯楽 | 10 | | 1 |
| 公営競技 | 14 | | |
| 外国語放送 | 12 | | |
| ショッピング | 9 | 1 | 1 |
| 成人向け | 16 | | |
| 番組案内 | 2 | | 7 |
| PPV | 31 | | |

6. 視聴料金について

(1) BS放送

| 事業者名 | サービス名 | 月額利用料金(税込) | |
|-------------|-----------|------------|----------------|
| 日本放送協会(NHK) | BS(衛星放送) | 945円※ | 4ch |
| WOWOW | デジタルWOWOW | 2,415円 | SD3ch or HD1ch |
| | アナログWOWOW | 2,100円 | 1ch |

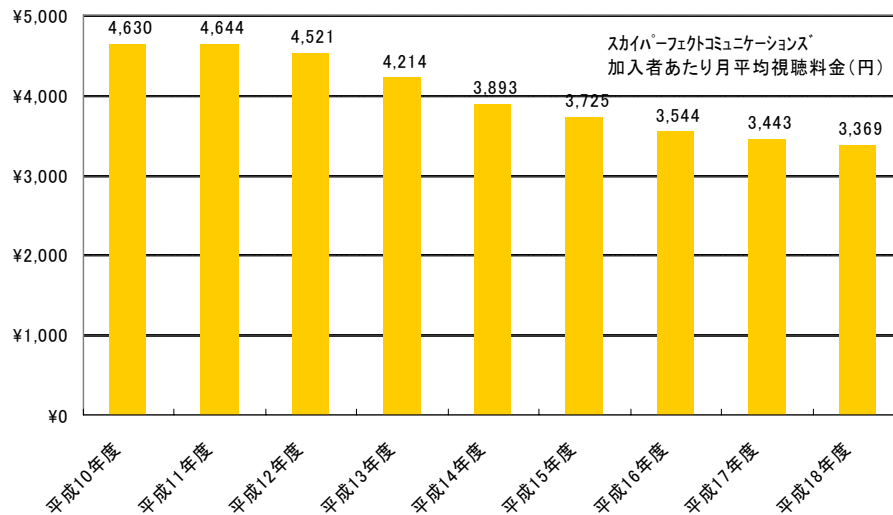
※別途地上波放送の受信料が必要

(2) CS放送

| プラットフォーム事業者 | サービス名 | パック名 | 月額利用料金(税込) | |
|----------------------|-----------|--------------|------------|------|
| スカイパーフェクト・コミュニケーションズ | スカパー！ | スカパー！よくばりパック | 3,500円 | 68ch |
| | | スカパー！えらべる15 | 2,800円 | 15ch |
| | e2byスカパー！ | e2基本パック | 3,570円 | 41ch |

※上記は料金プランの一部。別途プレミアムch、単chサービスあり

■参考:スカイパーフェクト・コミュニケーションズ加入者あたり月平均視聴料金



NHK衛星受信料変更の検討について

NHK衛星受信料変更の検討について①

| 検討の視点 | ヒアリング項目 |
|---|---|
| 1 衛星受信料について、現在どのような問題が指摘されているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 衛星受信料について、どのような問題意識を持っているか。 視聴者から寄せられる意見の中ではどのような問題が指摘されているか。 |
| ●CS放送の視聴者からNHK衛星放送受信料について寄せられた意見は特段ない | |
| 2 衛星受信料を設定した当時と現時点で、異なる要素は何か。 | |
| (1)衛星放送の普及状況の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 衛星放送を受信可能な受信機の普及状況はどのように変化しているか。また、今後の見通しはどうか。 衛星契約数・契約率はどのように変化しているか。また、今後の見通しはどうか |
| <p>●CS放送の普及については3、4P参照</p> <p>①CS放送は平成19年12月現在で約1,030万件の加入で総世帯数の約20%。</p> <p>②平成23年(2011年)までに1,500万～2,000万を目指す。</p> | |
| (2)放送技術の進展 | <ul style="list-style-type: none"> アナログ放送のスクランブル技術とデジタル放送のスクランブル技術はどのように異なるか。 現在、衛星デジタル放送については、確認メッセージの表示を行っているがどのような仕組みで表示や解除を行っているのか。 |
| <p>●CS放送の放送技術については5P参照</p> <p>①CS放送では初期段階からデジタル伝送方式を採用しわが国のデジタル放送の先駆的役割を担ってきた。</p> <p>②CS放送ではスクランブル技術について当初よりデジタル技術を取り入れ、その運用や開発に貢献してきている。</p> <p>③また限定受信技術とその運用についてのノウハウの蓄積を図ってきたものである。</p> <p>●e2 by スカパー！では、NHK BSの確認メッセージと類似の仕組みを利用して、加入促進等の自動表示メッセージを運用している。</p> <p>→「e2 byスカパー！を初めて受信すると、自動的に期間限定の仮視聴が可能となり、このメッセージが表示され、カスタマーセンターの連絡先等を案内する。視聴者から無料視聴キャンペーンや本登録の申し込みがあれば、メッセージは表示されなくなる。</p> | |
| (3)衛星放送の受信環境の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 衛星契約の締結者の受信環境はどのように変化しているか(パラボラアンテナの自己設置、共聴施設による共同受信、CATVによる共同受信等)。 |
| ●CS放送において初期はCATV経由での視聴が中心であったが、その後世帯による直接受信が加わった。また、マンション等の集合住宅においては共同アンテナの設置が一般的となっており共聴施設による受信は増加している模様。CS放送ではCATV経由:直接受信の比率はおおよそ2:1となっている。共聴施設経由の比率は不明 | |

NHK衛星受信料変更の検討について②

| 検討の視点 | ヒアリング項目 |
|--|--|
| (4) 視聴者ニーズの変化 | <ul style="list-style-type: none"> 衛星放送に対する視聴者ニーズはどのように変化してきているか。 NHKの衛星放送に対する視聴者ニーズはどのように変化してきているか。 これらをどのように評価しているか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●CS放送では視聴者の多様なニーズに合わせ、様々な専門チャンネルが放送されている。 ●CS放送開始当初は30程度のチャンネルであったが視聴者のニーズに合わせ新ジャンルのチャンネルの出現やジャンルの細分化がなされ現在200あまりのチャンネルがサービスされている(P6参照) | |
| (5) NHKの衛星放送の番組編成の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 番組編成上、地上波との差別化をどのように図っているか。また、差別化の方針は衛星放送の開始時からどのように変化しているか。 衛星放送における自己制作番組、再放送番組、マルチ展開番組等の比率はどのように変化しているか。また、今後どのような方針で番組編成を行っていくのか。 |
| — | |
| (6) NHKの衛星放送のチャンネル数、衛星経費の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 衛星放送のチャンネル数、衛星経費はそれぞれどのように変化してきたか。 これらをどのように評価しているか。 |
| — | |
| (7) NHKの衛星放送の性格(難視聴解消、先導的役割) | <ul style="list-style-type: none"> 難視聴解消、先導的役割など現在NHKの衛星放送に期待されている役割をどのように認識しているか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ①これまでの難視聴解消の役割については、これに代わるものが出現するまでは継続するべきと考える。 ②上記が出現した場合を想定した受信料の在り方について慎重な検討を要するものとする ③上記②に関連してNHKが保有する衛星放送の数および内容についての慎重な議論が必要と考える。 ④衛星放送の普及促進／技術開発等においてNHKが果たしてきた役割は大きく、今後もこのような先導的役割を担う必要がある ⑤NHKの衛星放送の内容については、いわゆるコマーシャルベースでは実現しにくい公共的内容や国民の嗜好に広く応えるものを中心に放送することが期待される。また総合編成を主体に考えるべきであり、ジャンルを分けた専門放送を行うことは避けるべきである。 | |
| (8) 民間衛星放送事業者との関係 | <ul style="list-style-type: none"> NHKと民間衛星放送事業者との関係についてどのように認識しているか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●NHKおよび地上波放送またはそれらが運営／関与するBSデジタル放送は基幹放送または準基幹放送であり、CS放送は国民の多種多様なニーズに応えるための有料専門多チャンネル放送であるため補完的な位置関係にあると考える | |

NHK衛星受信料変更の検討について③

| 検討の視点 | ヒアリング項目 |
|--|---|
| (9)スクランブル化に伴う視聴者負担 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点でNHKの衛星放送をスクランブル化した場合、視聴者負担はどの程度増えることが見込まれるか(負担を伴う新たな設備の設置の必要はないか)。 ・ BS放送の完全デジタル化後はどうか。 ・ これらをどのように評価しているか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●NHKの衛星放送のスクランブル化は視聴者に対して何らかの負担をもたらすことは明らかであり、広く理解を求めながら実施することが望ましい ●CS放送の場合、原則(一部無料を除く)有料放送であるところから、視聴料収入の中で負担しており最終的には視聴者負担となっている | |

NHK衛星受信料変更の検討について④

NHK衛星受信料変更の検討

| | 地上契約への一本化 | スクランブル化 * 1 | |
|------------------------------|-----------|---------------|--|
| | | ① | ② |
| (1) 現在生じている問題を解決できるか | * 2 | * 3 | 可 |
| (2) NHKにより提供される衛星放送の性格に及ぼす影響 | 特になし | 特になし | ・公共放送という前提を失う。* 4 ・無料(広告)か有料の選択 * 5 |
| (4) 視聴者の負担に及ぼす影響 | 特になし | 特になし(2011年以降) | ・BS/CS有料/無料放送との競合 |

* 1:①現行の「特殊な負担金」の位置付けを基本的には変更せず、支払わない視聴者を視聴不可とする

* 1:②視聴者が視聴(有料)するかどうか選択する

* 2:形式的にはフリーライダーの問題は残るものの一応の解決になるが、衛星放送料金が上積みされた場合、心理的には同じ問題が残ると思われる。衛星放送を見る環境にない視聴者にも衛星放送の経費を負担させるという問題を生じる。まして衛星放送が地上波のサイマルからまったく別の編成になった場合にはその問題が大きいと思われる

* 3:現状からフリーライダーを締め出す効果のみ

* 4:放送の質の低下が懸念される

* 5:無料広告放送の選択肢は在るのか、またいずれの場合も公共放送とはみなせなくなるとすれば、NHKがこれを行なうことの妥当性も検討の必要がある

NHK衛星放送のスクランブル有料化についてはCS放送の普及を阻害しないよう、そのチャンネルの数、放送の内容、料金の水準など慎重な検討を期待するものである